

東村山市第3次農業振興計画策定に係る懇談会の開催報告

●日 時：令和2年9月10日（木）① 15:00～16:30 ②17:00～18:30

※2部制により開催

●場 所：東村山市役所北庁舎2階 第4会議室

●出席者：生産者18名（*）、事務局7名

* J A東京みらい東村山地区女性部2名、青壮年部2名、東村山緑化組合3名、東村山市果樹組合1名、東村山花卉研究会2名、東村山市直売会2名、有機農業研究会2名、野口農業研究会2名、認定農業者2名



1 ここ10年における貴団体等の農業に関するおもな取組状況

○営農環境

- ・野菜農家であるが、トマト・小松菜などの野菜を生産している。
- ・2棟のハウスを新設し、施設栽培を強化している。
- ・援農ボランティアにも助けていただいている。
- ・援農ボランティアに来ていただいたことがあるが、作業を上手くお願いできなかった。
- ・花卉農家は家族経営が多く、市場出荷をメインに、経営規模を継続しているメンバーが多い。
- ・各団体から依頼される植栽・剪定・造園・管理等の受託事業を積極的に実施している。
- ・植木の生産、造園、仲介業などメンバーによって事業が異なり、共通事業を生み出しにくい（複数事業を実施する組合員もいる）。植木業界の景気は15年ほど低迷している。出荷するまでに苗木で3年、木だと10年要するため、先読みがしにくい。個人宅や公共施設での需要が少なくなっており、仲介業者を通じて、テーマパークなどへの納品にもつながった。
※都内の植木生産者は、全国産地と比較すると生産面積が小さく、管理が行き届きやすいという特徴がある。
- ・約60年前に発足し、梨農家を中心に50件の農家だったが、現在は約30件。梨の他に、ぶどうや花を栽培している。後継者が見つからない農業者が辞めていく状況である。
梨の栽培面積は減ってはいるが、品種転換、ジョイント栽培、ポット栽培など新しい方法にもチャレンジしている。
- ・8件の農家で構成されている（30年前に組織）。東京都有機農業堆肥センター（青梅市）から堆肥を仕入れている。会員はJAの直売所やスーパーに出荷している。

○直売所への出荷

- ・直売会登録者は60名おり、登録者の増減はほとんどない。売れ残りは翌日朝までに引き取る。野菜部会において、勉強会などを実施している。

出荷者は、直売所には形がきれいなものを中心に出荷し、B級品やお買い得品は庭先販売を中心に販売するなど使い分けている。

○庭先販売所

- ・庭先販売の価格は、市場価格と合わせたいが100円からあげることが難しい。周辺住民も多くないため、これ以上の売上増は見込めない（多品目販売は心掛けています）。
- ・周辺農家より早く収穫・販売できるよう、種まきの時期などを工夫している。

○販路開拓

- ・スーパーや学校給食など、販路は以前より広がってきた。
- ・自社運搬、配達、自農園のブランド化を図っている。
- ・販促活動に注力し、ホームページを立ち上げた（ECサイトを開始した）。
- ・キャッシュレス決済を導入した（庭先直売所などで活用）。
- ・個人顧客を開拓するため、多品目生産、ストーリー販売、SNS発信、飲食店との連携などの取組を実施している。
- ・花卉は、市場流通（共選に近い個選個販）であるが、コロナ禍の影響もあり、ネット取引（現物を見ない取引）が主流になり、取引先との信頼関係の重要性が増している。個人消費者は購入単位が少ないこともあり広がっていない。
- ・果樹組合では、外に売っていく取組、ブランド力を上げる取組も実施したいが、今年度はコロナ禍の影響で実施できなかった。
- ・梨農家は農園での直売がメインであり、個人への宅配便も多い（全国から注文がある）。この10年での販路は大きくは変わっていない。
- ・重量野菜など、品目によっては売れないものもある（作りすぎると売れない場合がある）。
- ・多くの花卉農家は切り花ではなく立花を生産しており、立花は輸送コストがかかるため地場市場中心となる。ステイホームで新たに園芸を趣味とする人もいるのではないかと期待している。

○加工品の製造・販売

- ・地元野菜を使用した加工品を販売している。
- ・地元企業と提携したソースの開発を継続して行っている。
- ・ジャム加工（ブルーベリー、キウイ）、残った野菜の真空パック加工を行っている。

○イベント等への参加（販売等）

- ・菖蒲まつりにて地場産野菜の販売している。
- ・市民産業まつりでの宝船製作、焼き芋、ポン菓子販売している。

- ・ さくらまつり、みどりの祭典、産業まつり等の参加している。
- ・ 様々なイベントでの野菜即売会を行っている。

○その他

- ・ 関東、東海地方の花弁展への参加、研修旅行、女性部合同研修を行っている。
- ・ 月1回の定例会の開催。生産者見学、市民産業祭、みどりの祭典（会員宅を巡り研修）などの事業を実施している。
- ・ 野口農事研究会（15件前後の農家で構成）では、共同でのマルシェ出展、苗購入、出荷、勉強会、視察などを行っている。
- ・ 市場、JA、市と懇談により、久米川駅北口プランタン事業を推進している。
- ・ 品評会を通じて生産・剪定・管理技術の組合員間の情報交換を行っている。
- ・ 優良先進地の視察研修を毎年実施している。
- ・ 共通の出荷袋を作成している。

2 現在、営農(流通・加工等も含む)する上で困っていること、問題点

○生産環境

- ・ 生産品の需要と供給がマッチしていない。圃場不足、人手不足。
- ・ 農地の収用が決まっており、物理的な生産地減少、規模縮小による代替戦略を思案中である。
- ・ 資材、動力光熱費の高騰。騒音、薬剤散布への住民理解が欲しい。
- ・ 集中豪雨時の冠水、土の流出に悩んでいる。

○販路

- ・ 販売できる場所が少ない。
- ・ 景気の低迷により、生産樹木の販売不振が数年にわたり続いている。色々な方面から売り上げアップに繋がる方法を模索している状況である。
- ・ 重複しやすい野菜の販路に困っている。
- ・ イベントの中止により、東村山産の野菜の販売、地域住民の交流ができていない。
- ・ 市内販売だけでは厳しい状況になることが想定される。市外へのPRは重要な課題である。

3 貴団体等の今後の営農(流通・加工等も含む)の見通しやビジョン、やってみたい取組など

○新規事業、経営拡大

- ・ 自分の世代で終わらせないよう、自社ブランドをもち高価格で販売するなど、所得を2倍にあげたい。
- ・ 規模の拡大、新種の生産を実施したい。
- ・ 経営面積を広げるかどうかは場所、条件次第である。
- ・ 6次産業化（真空パック詰め）による販売を進めたい。
- ・ 相続により土地が減少することが考えられるが、回転数をあげる、農地を借りるなどで経営

を保つことは可能だと考える。

○他者への拡がり、広報・PR

- ・地場野菜を市民の人に知ってもらいたい。
- ・青壮年部の活動をもっと市民に知ってほしい（学習活動など）。
- ・駅前や通り沿いの公園、学校等で花を使ってもらいたい。
- ・「繋がる緑化組合」をモットーに、市役所各課、JA、シルバー人材センター、他の団体と密にコミュニケーションをとるためのホットラインを導入し、今後10～20年先を活性化し、持続可能な組織作りを目指して活動したい（新規イベント等があれば積極的に参加したい）。

○地域住民との交流（都市農業の特徴を生かした取組）

- ・都市農地貸借円滑化法ができたため、自身の農地（20～30aの生産緑地）で市民農園を実施したい（運営ノウハウを学びたい）。
- ・都市の農業の必要性（多面的機能の重要性）を活かしたい。
- ・使われていない農地を共同農場として使用（活用）する。

4 上記3を進める上で、市など行政に支援してほしいこと、協力してほしいこと

○生産に関する助成や支援

- ・資金の援助
- ・新規の施設整備に限らず、ハウスの張替えなど、既存の設備等の修繕や改修にも使える事業があると嬉しい。
- ・生産樹種の提案、希望、活用方法（販売手段を含む）などの情報提供。

○地産地消の推進

- ・地元野菜、地産地消の市民への理解
- ・道路沿いの植え込みや学校、公民館、市役所、駅前、公園などを活用した農産物の即売イベント、また、季節ごとの花の植え替えなどを推進してほしい。
- ・5年後、10年後を見通した時に、買い物困難者が増えることが懸念される。移動販売車の導入や利用促進（販売許可等）に向けた取組が必要である。
※人口減少が進むとスーパーも減ってくることが想定され、その中で直売所のあり方（長く支持される仕組みや運用）を検討することが重要でなる。

○広報・PR

- ・東村山産農作物や花卉のPRの場を設けてほしい。
- ・庭先直売所について、市民がまわりやすくなる取組を行ってほしい。
- ・庭先直売所、観光農園などを散策できるようなアプリを作ってはどうか。
- ・ウェブ上に「東村山市の農業」の詳細を掲載してはどうか（掲載方法には工夫が必要）。

○他者との連携（特に市民との交流）

- ・使われていない農地を市が借上げ「共同農地」として位置付け、作業ができる団体などと協力して作付けを行ってはどうか。
- ・地域住民との交流の場を設けてほしい。
- ・市民参加による花の水やりや管理（久米川駅北口など）。
- ・花材提供は可能なので、植え替え、手入れ、水管理などをしてもらえる人材の獲得。

○その他

- ・相続により農地が減っていくなかで、10年後に東村山市の農地がどこまで残っているのか。できるだけ一枚畑として残す取組が必要。
- ・研修候補地についての行政からの推薦、提案などがあれば情報提供をしてほしい。
- ・転入者に桜の苗木をプレゼントしてはどうか。

以上